

救急医学

ナンバリング M4-S1-D26

責任者・コーディネーター	救急医学分野 眞瀬 智彦 教授		
担当講座・学科（分野）	救急・災害医学講座、岩手県高度救命救急センター		
担当教員	高橋 学 教授、藤田 友嗣 講師、三崎 俊斉 講師、小鹿 雅博 講師、筒井 章太 助教、森野 豪太 助教、柴田 繁啓 非常勤講師、鈴木 利央登 非常勤講師、小野寺 誠 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 9コマ 18.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

生命を脅かす傷病は突然人々を襲う。外傷や中毒、心筋梗塞や脳卒中などは短時間のうちに人の命を奪っていく。このような重症度の高い傷病者に対して、刻々と変化する病態に対応して速やかに適切な診断、そして処置を行う能力を学習しなければならない。さらに、応急処置にのみとらわれず科学的根拠に基づいた治療を目的とし、必要な知識と思考力を養うことが重要である。

・教育成果（アウトカム）

医療人としての全人的人間性を持って、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る謙虚な態度を持ちながら、医師国家試験出題基準に定められた救急医学の知識・技能・態度を学修することによって、緊急性の高い患者に対する迅速な診療について説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	発熱、頭痛、腹痛などの一般的な症状、ショック、意識障害、呼吸困難などの重篤な症状を通して症候論的に思考し、的確な鑑別診断について説明できる。
2	緊急度の高い重症患者では、緊急処置が診断と同時進行か、時には診断に先行する判断について説明できる。
3	気管内挿管、除細動、輸液、中心静脈路確保、胸腔ドレナージなどの処置方法や、緊急薬品使用方法などについて説明できる。
4	各種診断書の書き方、感染症新法、食品衛生法、麻薬取締法、各種届出義務など救急医療関連法規について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/3(金)	3	救急・災害医学講座	高橋 学 教授	救急医学概論	1,2,4	<p>【事前学修】 救急医学とはどういうものか、救急医学が扱う病態、トリアージの1つであるスタート式トリアージがどういうものかを標準救急医学の教科書を読んで説明文を作成する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ救急医学の特徴とトリアージの実際をそれぞれ100字程度でまとめること。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/6(月)	5	救急・災害医学講座	藤田 友嗣 講師	急性中毒	1,2	<p>【事前学修】 急性中毒における初期診療の基本原則ならびに、有機リン系農薬、一酸化炭素、三環系抗うつ薬、アセトアミノフェン、パラコートおよびメタノールによる代表的な薬毒物中毒の病態と治療方針について予習し、講義内容の理解に備えること。（所要時間：60分以上）</p> <p>【事後学修】 講義内容を復習し、代表的な急性中毒の病態および治療方針ならびに、薬毒物中毒における基本的な初期対応の考え方について理解を深めること。（所要時間：60分以上）</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	4/10(金)	4	岩手県高度救命救急センター	三崎 俊斉 講師	頭部外傷	1,2,4	<p>【事前学修】 国家試験出題範囲の頭部外傷疾患を教科書を読んで自分なりに説明文を作成すること。所要時間 1時間程度。</p> <p>【事後学修】 疾患を頭蓋骨損傷、局所性損傷、びまん性損傷に分類し、それぞれ説明することができるようになること。所要時間 1時間程度。</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/17(金)	3	救急・災害医学講座	柴田 繁啓 非常勤講師	ショック（総論）、環境異常（熱中症・低体温症）	1,2	<p>【事前学修】 標準救急医学第5版の該当項目（ショックp145-152、熱中症・低体温症p452-457）について事前に熟読しておくこと。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義や教科書の内容を理解して、ショック、環境異常（熱中症・低体温症）の病態や適切な治療について説明できるようになる。所要時間 150分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/17(金)	4	岩手県高度救命救急センター	小鹿 雅博 講師	急性腹症、腹部外傷、胸部外傷、多発外傷、ショック	1,2	<p>【事前学修】 標準救急医学第5版の該当項目を事前に熟読すること。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義内容をまとめ、各症例について適格に説明できるように解釈すること。過去の国家試験問題にも取り組み、どこが重要なかを講義終了後に自分で確認すること。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	4/24(金)	3	救急・災害医学講座	森野 豪太 助教	広範囲熱傷	1,2,3	<p>【事前学修】 広範囲熱傷に関して標準救急医学第5版を読んで事前学習する。所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 講義及び教科書の内容を理解して、熱傷深度・熱傷範囲・気道熱傷・初期輸液ヘモグロビン尿に関して説明できるようになる。所要時間 60分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	4/24(金)	4	救急・災害医学講座	鈴木 利央登 非常勤講師	呼吸不全・溺水、誤嚥	1,2,3	<p>【事前学修】 標準救急医学第5版の該当箇所について事前に読み込み理解しておくこと。 所要時間 60分以上</p> <p>【事後学修】 正しく定義や診断基準を把握し、各症例にどこがポイントとなる症状、病態、検査データであるか説明できるようにすること。所要時間 60分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	4/30(木)	5	救急・災害医学講座	小野寺 誠 非常勤講師	吐血・下血、異物誤飲	1,2,3	<p>【事前学修】 消化性潰瘍や消化管静脈瘤をはじめとする、消化管出血をきたしうる疾患についての基本事項を復習しておく。 所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 消化管出血症例に対する初期対応について説明でき、代表的な止血法を挙げられる。消化管異物に対する除去の適応について説明できる。 所要時間60分以上 【ICT】 WebClass</p>
講義	5/28(木)	3	岩手県高度救命救急センター	筒井 章太 助教	意識障害・痙攣	1,2,3	<p>【事前学修】 意識障害と痙攣について標準救急医学第5版p1577-164を事前学習する。所要時間60分以上</p> <p>【事後学修】 講義及び教科書の表を理解し、意識障害と痙攣のメカニズムと評価法、および、その原因について説明できるようにすること。所要時間60分以上 【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	標準救急医学 5版	有賀 徹 編	医学書院	2014

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～4	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

1. 総論的領域

- (1) 救急医学概論：救急医療体制、搬送、情報、災害救急、救急関連法律など
- (2) 救急医療総論：鑑別診断、検査・処置、心肺蘇生、緊急薬品、呼吸・循環管理、体液管理、多臓器不全、DIC、SIRS

2. 症状を中心とした領域

- (1) 侵襲と生体反応・ショック
- (2) 意識障害・痙攣
- (3) 呼吸困難
- (4) 心臓発作・不整脈
- (5) 腹痛
- (6) 吐・下血
- (7) 多発外傷
- (8) 熱傷
- (9) 中毒
- (10) 自然環境障害（熱中症、減圧症、低体温など）
- (11) 異物誤飲・誤嚥
- (12) 小児科救急（小児科） *時間的制約で消化できない分野は第5学年の臨床実習の小講義で補足する。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本科目では、事前事後学修以外に7.5時間の自己学修を要す。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う。

・教育資源

参考書として「標準救急医学」（有賀 徹編：医学書院）を準拠する。講義にはPCによる、バーチャルスライドを用いる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			